

2025年度 法科大学院

第4期入学試験問題

2 時限

民法

(論文式)

試験時間 50 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民法]

[設問]

令和 3 年 2 月 18 日、X は、Y から、某県某市の宅地（約 88 m²）（以下「本件宅地」）を買い受け、その代金を Y に支払った。同年 5 月 9 日、本件宅地につき Y から X への所有権移転登記がされ、そのころ、X は Y から本件宅地の引渡しを受けた。

ところが、本件宅地の一部（約 23 m²）については、昭和 47 年 10 月 27 日付けで道路位置指定がされていた。このため、本件宅地上の建物の建築に当たり、床面積を大幅に縮小しなければならないなどの支障が生じることが分かった。

X は、令和 6 年 2 月 3 日、上記道路位置指定の存在を初めて知った。

X は、Y に対し、契約不適合責任を追及することにした。X は、Y に対し、どのような救済を求められるか論じなさい。これを論じる際には、複数の救済手段を挙げるとともに、それらの救済手段の間の関係についても論じなさい。